

(1) いのちとくらしを守る

≫≫ 危機管理で求められること

全国各地で災害、特に局地的豪雨が頻繁に発生する中、まずは「自分たちで何ができるか」を考え、自分の判断で行動できるようにすることが求められています。特に、令和2（2020）年に感染が拡大した新型コロナウイルス感染症による社会情勢の変化について、危機管理にも新たな視点が必要であることをあらためて認識させられました。

≫≫ 地域のつながりが安全安心につながる

地域の中には、一人では自分の身を守ることが困難な人がいます。安全で安心できるくらしを守るためには、行政が行う「公助」はもちろんですが、自分の身は自分で守る「自助」、地域や身近な人同士が助けあう「共助」が必要になるため、普段からの声掛けなどで地域のつながりを強くしておくことが大切です。こうした地域のつながりは、防災だけでなく、防犯や交通安全などにもつながるものです。

≫≫ 一人ひとりが考え、行動し、地域でのつながりを強める

そうすることで私たち自身が主役となって、私たちのくらしを守っていきましょう。

これらのことを踏まえ、私たちは次のとおり目標を定めます。



基本目標 1

みんなで行動し、くらしを守ろう

≫≫ みんなで菰野町を守る

私たちは自助、共助の意識を持つことで災害時に誰一人取り残さない避難などができるよう「みんなで菰野町を守る」という気運を高めていきます。

≫≫ 菰野町を守るための住民の役割

災害、火災、交通事故や犯罪などに対して、住民一人ひとりがそれらの防止意識を高め、自主防災組織や防犯協会などの地域の組織がより活発に予防活動や初動活動を行うことができるようにすることによって、それらの未然防止と災害発生時の減災につなげます。多様化する消費者トラブルや被害に対しては、地域や身近な人でくらしを守ることに努めます。

≫≫ 菰野町を守るための行政の役割

行政は災害時における避難のための適時、的確な情報発信など被災者や孤立者を減らすための対策を進めるとともに、消防体制などの充実による専門的で高度な対策を強化します。浸水対策などハード面についても、災害を未然に防ぐための取り組みを関係機関と連携して進めます。消費者トラブルや被害の対応については、関係機関と連携しながら、消費生活に関する窓口機能の充実を図ります。